あいコープ放射能自主測定ニュース

No. 44　2012年９月４回

生産者の取り組み
ー放射能対策をしていますー

あいコープの米作り生産者の取組み

もうすぐ新米の季節。あいコープの生産者は昨年に引き続き、放射能対策を行い、こだわりの米作りを実践します。

迫ナチュラルファームの袋さんは
カリウムを通常より多く投入。
→稲のセシウム吸収を抑える効果
田んぼの入口にもみ殻を設置。
→もみ殻がセシウムを吸着する効果
を行っています。

県内産地は比較的汚染が少なかったことは昨年の検査でも明らかになってきました。それでも各産地では、放射性物質に対して、今後もできるかぎりの対策を続けていきます。

西塚さん

昨年は目の前が真っ暗になりましたが、全作物・全生産者を測定し、さらに土壌についても細かいメッシュで測定しました。これらの数値が明らかになり、現在はほっとしているところです。現在農作物の吸収を減らす技術も続々と開発されつつあります。あいコープが地産地消を堅持する方向を打ち出したことは大変重要です。放射能問題に対してはひとつずつ解決していきたいです。【大郷みどり会】

あいコープは、2012 年も新米検査を行います

放射能検査は、土壌検査をまず行い（一次モニタリング）、稲体検査、最終的には出荷前に全産直産地の玄米を検査し、放射性セシウム＜10Bq/kg（不検出）を確認した上でお届けします。（万一、玄米検査で放射能が検出された場合は白米検査を行い、玄米同様放射性セシウム＜10Bq/kg（不検出）を確認した上でお届けします。）

○土壌検査……田んぼの土壌を検査します。
○稲体検査……籾部分を含め稲の茎や葉丸ごとを検体として検査します。
○玄米検査……収穫できる状態に熟した玄米を乾燥調整してお届け前までに検査します。
※　土壌検査、稲体検査は宮城県内３産地（七郷みつば会、大郷みどり会、迫 NF 自然村）を対象として行い、玄米検査は上記３産地の他、全ての産直産地で行います。